

祝 教会の誕生日

主任司祭 昌川信雄

コロナ対策による自粛要請は解除になりましたが、ウイルスがなくなったわけではありません。敵が見えないのは「悪霊」と同じ。油断は禁物です。

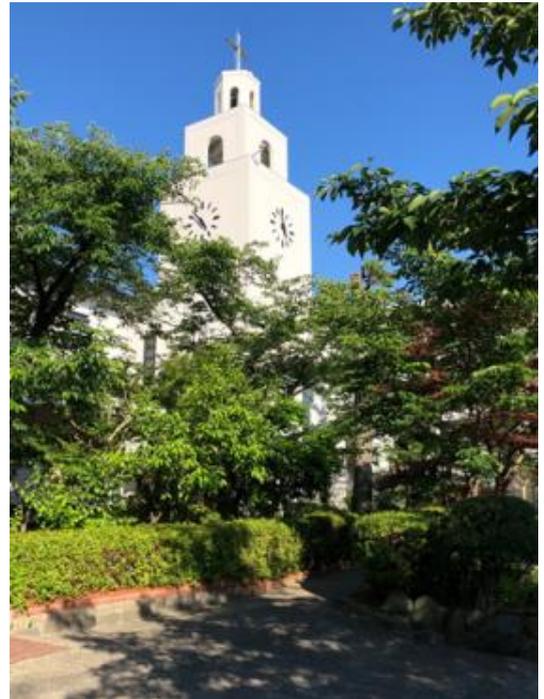
世界の歴史上、忘れ去られた頃やってくる、この度の世界的災害は、見えないウイルスにすきを与えないよう無防備にならず、人類が新しい生き方を身に着けるための一つの警告を与えられたのだと捉えたいものです。

神様から世界の管理を任された人類といえども、私たちは食物連鎖の頂点に君臨しているわけではありません。学識高い太っちょの友人神父のかつての言葉です。「だいたい地球上の生物の90%は、他の生物の餌になるんだよ。人間もその例外ではない。ウイルスや癌のえさだ」と。生物を互いの餌にするという、初めて耳にした「計りがたい神さまのやり方」に困惑、圧倒された私でしたが、実にその通りなのだと思います。イエス様も私たちの餌(ご聖体)となるために世に来られ、十字架を通過して復活し、聖霊を約束して教会を誕生させた、この神の計らいを思うと、ただ只、手を合わせるしかありません。言われて見れば私たちの親も、子供の餌となって川を流れて逝くタニシに譬えられるのです。(タニシの話はまたの機会に！)

親がいなくなって、親の残した遺言で子どもは生きる。イエス様が残して逝った遺言は、「聖霊」でした。この聖霊で生きる人が真のキリスト者なのですが、果たしてどれだけの信仰者が「見えない聖霊」を自覚しているのでしょうか？

約束の聖霊は「エルサレムで待て」。この意味は大切です。自己保身、自己中心性である私たちの自我に死んで、空になった器に聖霊が宿ることを学んだ信仰者にとってエルサレム(苦しみ、災害等)は自我を捨てるチャンスだからです。

聖霊によって教会が誕生した喜びを今日は私たちの誕生日と同じように祝う日です！ 6月からの公式ミサで皆様とお会いできますことをたのしみに行っています。



5月の香里教会前庭と鐘楼

2020年5月31日